



2021 ANNUAL REPORT

年次報告書 2021.4.1 - 2022.3.31



TOKYO2020 パラリンピックにカンボジア代表として唯一人出場。見事、決勝進出したヴァン・ヴァン選手

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド

ご挨拶

日頃よりハート・オブ・ゴールドへのご支援をありがとうございます。2021年度の活動報告をここにお届けします。

2021年度もコロナ禍が活動に大きく影を落としました。カンボジアは約2年間にわたり全ての学校が閉鎖され、養護施設の子ども達も日本語学校の学生達も学ぶ場を失い、体育の授業もできなくなりました。

しかしながら、このような状況下においても多くの皆様のご支援をいただくことで活動を止めることなく継続することができました。心より感謝申し上げます。

そして、明るいニュースとしては、今日までの私達の活動に国際協力機構（JICA）より理事長表彰をいただくことができました。一つひとつの大切な思いのある行動の積み重ねが大きな力となり、カンボジアの小学校、中学校、高等学校、大学における一貫した質の高い体育科教育の形を作り上げることができ、評価いただきましたことを、この受賞に際し、皆様と喜びを分かち合いたいと思います。

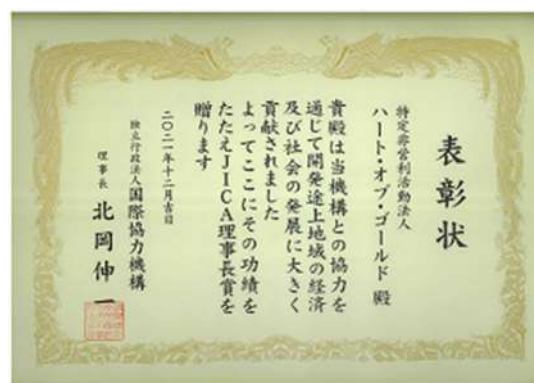
感染症、紛争、物価上昇など、世の中が目まぐるしく変化する中、ハート・オブ・ゴールドは、今まで以上に強さとしなやかさを携えて、これからも日々、活動に邁進していきます。引き続き皆様のお力添えを賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

2022年7月

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド
代表理事 有森裕子



2021年12月14日 JICA 理事長表彰式



Mission

ハート・オブ・ゴールドはスポーツ・教育等を通じて、人々が「希望と勇気」をもてる社会を実現します。

Vision

最も困難な状況下にある途上国や被災地、紛争地の子どもたち・人々が、自立できるように、共に生き、共に育つことを目指します。

2021 年度事業報告書

(自 2021 年 4 月 1 日 至 2022 年 3 月 31 日)

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業分類	事業名	主な事業内容	実施場所
国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業	アンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)後援	・コロナウイルスの影響により活動なし	カンボジア
	スポーツエイド	・チャリティマラソンやスポーツイベントの実施、協力	日本
	チャリティイベント	・チャリティイベントの実施、協力	
スポーツを通じた開発支援事業	NIPES4年制大学化プロジェクト【外務省 NGO 連携無償資金協力】	・体育科コース運営ワークショップ、体育科コース運営モニタリング、教員マッチアップワークショップ、体育教員育成研修(カンボジア 2 回)、NIPES 授業モニタリング、大学マネジメント能力向上研修会、評価会議、インドネシアの大学との協議、施設運営ワークショップの実施 ・プール周辺施設、ジムルームの建設	カンボジア
	小学校から高等学校「Physical Education for All」プロジェクト【JICA 草の根技術協力事業】	・高等学校指導書作成・認定・印刷 ・普及計画策定ワークショップ実施(3 都・州) ・普及人材育成ワークショップ(3 都・州) ・普及計画実施状況確認モニタリング(3 都・州各 1 回) ・評価ワークショップ(3 都・州各 1 回) ・新体育普及コンテンツ作成、アプリコンテンツ開発支援	
	スポーツ施設設置	・体育拠点小学校及び中学校、JICA 海外協力隊活動校に施設、用具を支援 ・設置済み浄水器のメンテナンス	
	その他		
障がい者支援事業	パラ陸上支援	・AWHM に障がい者ランナー参加	カンボジア
	パラ競技会	・パラ陸上競技会 3/25-26(クラウドファンディングによる)	
	かすみがうらマラソン	・コロナウイルスの影響により障がい者ランナーの招聘なし	
被災地・紛争地における自立、復興支援事業	日本語教育	・HG ももたろう日本語学校(初級・中級:大学生、社会人対象)。日本での就労、留学。 ・日本語能力検定試験(5 名合格) / JFT-Basic(3 名合格) ・コロナウイルスの影響により高校留学は延期	カンボジア 日本
	養護施設(NCCC)運営	・孤児や貧困児童の受入れ、里親制度による養育	
国際理解・交流事業	サービ斯拉ーニング(学校教育)	・学校への講師派遣、オンラインによる出前授業、オンラインツールや文通での交流を通じた国際協力の実践的学習の場を提供。	日本 カンボジア
	受入事業	・インターンの受入れ(短期 2 名)	
その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	広報活動	・ホームページ、SNS の管理、更新 ・講演会、報告会、パネル展等の広報活動 ・「HG 通信」(年 2 回)、年次報告書及び広報資料作成 ・20 周年記念誌(Booklet 2) 発行 ・オンラインによるセミナーや交流会等の開催	日本 カンボジア
	渉外活動	・ネットワーク構築、外部対応など	
	調査・研究・情報収集	・シンポジウム、国際会議への参加 ・調査、統計、情報収集、資料整備、分析	

(2) その他の事業

定款の事業分類	事業名	主な事業内容	実施場所
①物品販売事業 ②出版・講演事業	収益事業	・バザー、イベントでのブース出店 ・オリジナルグッズ・書籍の販売	日本

国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業

事業名	アンコールワット国際ハーフマラソン／スポーツエイド	
支援対象	日本国内、及びカンボジアの大会参加者、カンボジア活動対象者	
活動理由	アンコールワット国際ハーフマラソンの実現に向けて、日本の有志が日本国内のチャリティマラソン大会から、その資金を集めた。その意志が、現在も引き継がれている。マラソン大会をはじめとしたスポーツイベントが、チャリティを掲げ、ハート・オブ・ゴールドがカンボジアで取り組む活動を支えている。	
活動概要	<p>日本、カンボジアともに新型コロナウイルスの影響を受け、多くの大会やイベントが中止となるなか、年度の後半は、形を変えて実施したものもあった。</p> <p>1. アンコールワット国際ハーフマラソン 1月1、2日に、シェムリアップのアンコール遺跡にて、実施。日程を延期し、カンボジア在住者のみの参加とする制限を設けた。今回も有森代表の参加は見送ったが、HGは障害者支援事業として障害者ランナーの参加をサポートした。また、プノンペンとシェムリアップのスタッフ、NCCCの子どもが参加した。</p> <p>2. 第11回親子チャリティマラソン in おもちゃ王国 11月21日、子どもとその保護者296人が参加し、開園前の遊園地内を周回ランニング。カンボジアの小学校に鉄棒を贈るチャリティ大会。</p> <p>3. 第10回淀川マラソン 大阪府守口市の淀川河川公園外島地区を会場とし、3月19、20日の2日間にわたり開催。1日目は10km/30km/3km、2日目はフル/ハーフにて、3,535人が参加。有森代表は、HGアンバサダーの高石ともや氏とともに、ランナーの皆さんに声援を送った。</p>	



アンコールワット国際ハーフマラソン スタート前

国際理解・交流事業

事業名	サービスラーニング(学校教育)	
支援対象	日本:小・中・高・大学 カンボジア:HG ももたろう日本語学校、NCCC、体育認定校(※物資配布先)	
活動理由	学校が取り組む総合的な学習や国際理解教育、ボランティア活動に協力。スタッフや現地活動者による講演や出前授業、ICTによる交流や、動画、文通、現地訪問など、様々な手段を活用。そして、交流、実践をとおして、子どもが世界の現状(貧困、環境、平和など)に目を向け、グローバルな視点で国際理解(異文化理解)を深め、多様性の共存や持続可能な開発などについて考え、更に自分理解につなげ、自己の可能性と力に目覚め、すすんで社会のために活動できる人材育成に寄与する。	
活動概要	<p>SDGsの達成に取り組む教育機関に協力</p> <p>1. 出前授業(12回) 当会の活動を通して海外、特に途上国を理解し、自分たちにできる活動につないで実践した。自分達が支援した募金や物資が、現地に届き、喜ばれ、活用されたことを知ることで、活動の意味を見つけた。本年は、SDGsネットワークおかやまの一員として、新しい学校にも広げた。特に、現地とオンラインで結び、交流できたことは顔が見え、声が聴ける交流となっている。これまで Skype によるオンライン交流が主であったが、現在は、Zoom や Google Meet 等、多様なツールを使用するようになっている。</p> <p>2. 物資・募金による活動 現地で必要とされる学校が集めた物資は、協力者のコンテナで4回送ることができ、大いに役立った。募金は、必要とされる学校設備(スピーカーセット)や NCCC の子ども達に使われました。</p>	

障がい者支援事業

事業名	障害者陸上支援	 
支援対象	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、カンボジアパラリンピック委員会(NPCC)、カンボジア障害者陸上連盟(CPAF)、障害者	
<p>活動理由</p> <p>障害を持つ人がスポーツをとおして仲間をつくり、目標を持ち、社会に出ていくことを願って「アンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)」に参加する仕組みを作った。そして同大会で上位に入賞した障害者ランナーを「かすみがうらマラソン」に招待する等、より多くの大会に参加する機会を提供している。</p> <p>また、カンボジアパラリンピック委員会や障害者陸上連盟とともに、選手のトレーニングのサポートを行う。専門の指導者がいない状況で、トレーニング方式やコーチの指導に関しては、選手育成とあわせ、指導者の育成にも取り組んでいる。</p>		
<p>活動概要</p> <p>カンボジアのパラリンピック委員会と協力し、障害者陸上の支援を行っている。選手・指導者の育成、啓発活動等に取り組んでいる。</p> <p>1. オンラインイベント TOKYO2020 パラ開催記念コラボ「東南アジアのパラスリートを一緒に応援しよう！」</p> <p>8月25日、ラオスのパラスポーツ支援を行う特定非営利活動法人アジアの障害者活動を支援する会(ADDP)と共催で、東京パラリンピックに出場するカンボジア、ラオスのパラスリートを応援する会を開催し、42人が参加。両国の状況や活動の説明、選手の紹介、ADDP 顧問の矢代英太氏と有森代表によるクロストークなどを行った。そして、カンボジアとラオスにおけるパラスポーツの展望を共有した。</p> <p>2. シューズ支援</p> <p>(株)栄光スポーツ様の呼びかけにより毎年実施されている日本のランナーの方からの中古シューズ支援は、今回過去最多となる315足と、184枚のTシャツ(新品)が集まった。12月19日に当会に託され、3月26日のパラ陸上競技会で、選手の皆さんに贈呈。その後、カンボジアパラリンピック委員会を通じて他競技の選手にも届けた。</p> <p>3. AWHM への参加</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1月1-2日に日程を変更し、人数制限を設けて開催された。当会支援で、35名の障害者が、プノンベン都、シェムリアップ州、タケオ州、コンポンスプー州、トボンクモム州から参加した。</p> <p>4. 選手の発掘事業</p> <p>2月27日、バタンバン州にある障がい者支援施設 Karuna Battambang Organization にて、パラ陸上競技会への招待者選出のため、体力測定を実施した。当会の体育科教育支援事業で実施している体力測定の種目を、障害に合わせて変更した。参加者19人のうち、体力テストの結果と、同行したパラ陸上選手・コーチが実際に見た選手のポテンシャルやパラ陸上に参加できる障害クラスに当てはまるか等を鑑み、車いす男子3人、上肢切断の男子2人、義足・機能障害の女子2人、計7人の招待が決まった。</p> <p>5. 第4回パラ陸上競技会の実施</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大により1年延期して、3月25、26日に開催。32名の選手が10の障害クラス(T11/T20/T46/T47/T53/T54/T64/F46/F56/F64)に分かれて、男女別4種目(100m/400m/走り幅跳び/砲丸投げ)に参加した。</p>		



ADDPとHGのスタッフも参加



選手発掘事業 車椅子利用者のボール投げ



パラ陸上競技会 新しいスタジアムで初の開催

スポーツを通じた開発支援事業

事業名	【JICA 草の根技術協力事業】 カンボジア王国小学校から高等学校まで一貫した高い質で学ぶ「PE for All」プロジェクト	
支援対象	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、地方教育局(POE、DOE)、小・中・高等学校	
活動理由	2006年から教育・青年・スポーツ省と連携し、小学校の学習指導要領、指導書作成と普及を経て、中学校でも同様の事業を実施し、カンボジア体育科教育の支援を行ってきた。また、同省が高等学校の指導要領を独自で作成、配付し、自立的普及も徐々に進んでいる。 本事業では、対象3都・州への小学校、中学校、高等学校の全ての学校において、新しい体育実施を目標とし、一貫した体育科教育の普及モデルとする。	
プロジェクト・ゴール	対象3都・州(プノンペン都、バットンバン州、スヴァイリエン州)の小・中・高等学校において、教育・青年・スポーツ省、各都・州・郡教育局監督の下、学習指導要領及び指導書の内容に沿った新しい体育が実施されている。	
事業成果	1. 高等学校指導書が認定された(2021年11月) 2. 体育普及計画策定ワークショップ(プノンペン都、バットンバン州、スヴァイリエン州)を通じて、各都・州の普及計画が策定された。 3. 体育普及計画導入人材育成ワークショップ(プノンペン都、バットンバン州、スヴァイリエン州)を通じて、体育普及計画を理解し、新しい体育を導入できる人材(州・郡教育局、小中高校長及び教員)が育成された。 4. 体育授業モニタリング(プノンペン都、バットンバン州、スヴァイリエン州)を通じて、現状の新しい体育の導入状況が確認できたと共に、課題を抽出することができた。	
活動概要		
1. 高等学校指導書の作成	オンラインにて6月に1回、7月に2回、8月に1回、9月に1回のワークショップを実施。2021年11月8日に教育省の承認を得て、指導書が完成した。	
2. 普及計画策定ワークショップ	2021年12月22～24日の3日間、対象3都・州・郡の教育局関係者を対象に、プロジェクトの目標、活動、今後の予定を説明し、実際に普及計画を策定するためのワークショップを開催した。	普及計画策定ワークショップ、閉会式
3. 普及計画実践人材育成ワークショップ	2022年1月25～27日にバットンバン州、2月7～9日にスヴァイリエン州、2月23～25日にプノンペン都にて都・州・郡の教育局や小中高等学校の校長、体育教員向けのワークショップを実施し、約150人が参加した。	
4. 体育授業のモニタリング	2022年3月からは対象3都・州の小中高等学校でモニタリングを開始、各都州で10校ずつの学校を訪問、今後は3都州内の全ての学校を訪問する予定で活動を進める。	
		
スヴァイリエン 普及計画実践人材育成ワークショップ	バットンバン 体育授業モニタリング	

事業名 【外務省日本 NGO 連携無償資金協力事業】
カンボジア王国 国立体育・スポーツ研究所(NIPES)体育科コース4年制大学化事業

支援対象 カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、国立体育・スポーツ研究所(NIPES)

活動理由
カンボジア教育・青年・スポーツ省が進める教育改革のもと、ASEAN 基準に合わせるため、すべての教員が学士(4年制大学卒業)を取得できるよう、教員養成課程の4年制化を図っている。体育科については、国立体育・スポーツ研究所(以下、NIPES)において2年制課程で中学校・高等学校の体育教員を養成しており、4年制にするためにはカリキュラム等のシステム構築、人材育成、施設整備等、多くの課題を抱えている。
本事業では、10年にわたりカンボジアの体育科教育の発展に寄与した活動の知見を活かし、先行している他教科の教員養成大学と一貫性のとれた4年制体育大学を設立することを目指す。

プロジェクト・ゴール
4年制体育科コースの試行的開講に最低限必要なシステムが構築され、教員とスタッフが育成され、プール、ジムが整備されることによって、NIPESの学生が現行の学習指導要領に沿った中・高等学校体育科を教えるために必要な領域・種目を履修することができるようになる。

事業成果
1. 6種8回のワークショップを実施し、第1年次事業で作成した運営ハンドブック、シラバスを改訂した。評価シートを開発し、3種8回の運営、授業、施設管理のモニタリングを実施し、システムの整備と人材育成を図った。
2. プール周辺のテラスと建物、ジム・ルームの建設が12月に完成し、ジム機材等の設置も完了した。

活動概要

1. NIPES 体育科コースが4年制大学に移行するための制度整備

- ・体育科コース運営ワークショップ: 日本体育大学評価基準の説明、運営ハンドブックに従って実際の運営業務と各担当の確認(6月)
- ・体育科コース運営モニタリング(3回、10月、1月、2月)

2. NIPES における質の高い体育を教えられる人材育成

- ・5月、教員マッチアップワークショップ: シラバスの修正と授業評価について
- ・体育教員研修会: カンボジア(3回)
10月: 1年目のシラバスの評価、改訂。講義と実技の授業の指導案。単位の履修とGPA(成績加重平均値)
1月: 日本研修を変更し、カンボジアで実施。前期のGPAの作成、授業評価シート
2月: 前期授業終了時のGPAによる成績評価、後期の教育実習(1年、4年生)計画作成、講義型授業と実技型授業の関連性、「専門科目の授業における教授法と学生の適切な評価」(岡出教授)、高等学校の体育の内容。
- ・体育教員の授業実施状況モニタリング: 4回(7月はNIPES内の教育実習のモニタリング、12月、1月、2月はNIPES内の講義と実技の授業のモニタリング)
- ・評価会議: NIPESの管理業務と評価シートを使って9領域124項目を評価、NIPES教員の義務と役割、授業の評価、「日本体育大学の認証制度と授業評価」について(岡出教授)(9月)
- ・2月にインドネシアのNegeri Semarang大学と今後の協力についてオンライン会議

3. NIPES における質の高い体育を教えられる施設状況の整備

- ・プール周辺のテラスと建物(1階: 男女更衣室、トイレ・シャワー室、事務室、2階: ジム・ルーム)の建設が完了し、ジム機材等を設置して、12月8日に教育・青年・スポーツ省大臣、日本国大使が出席して譲渡式を行った。
- ・施設管理のためのワークショップ: ジム機材のメンテナンスと使用方法(11月)
- ・施設運営・利用状況のモニタリング(2月)
- ・第3年次事業として、3月1日から寮の改修工事を開始した。



岡出教授によるオンライン講義



実技授業のモニタリング



完成したプール周辺の建物



譲渡式 ジム・ルーム視察

被災地・紛争地における自立・復興支援事業



事業名	日本語教育
支援対象	カンボジアの青少年
<p>活動理由 設立当時、貧困家庭の子どもの就職が困難な状況で、アンコール遺跡を有するシェムリアップには日本人観光客が多く訪れるようになり、日本語ができればホテルやレストラン、観光ガイド等の仕事に就くことができた。日本語教育の要望が多く寄せられ、2000年9月にシェムリアップ州の公立チェイ小学校内に無料の日本語教室を開講。これまでに多くの子どもが日本語を学び、自立につながっている。 その後、2015年にビルド・ブライト大学(BBU)外国語センターにて、青年を対象に日本語講座を開講し、2019年からはHGももたろう日本語学校として、日本での就労を視野に入れた日本語教育を行っている。</p>	
<p>活動概要 HGももたろう日本語学校は、1-6月、7-12月の2期制。カンボジア人3人、帰国中の日本人1人、計4人の教師と1人のアドバイザーにより指導を行っている。生徒のほとんどが社会人で、仕事をしながら、キャリアアップを目指している。</p> <p>1. 授業 新型コロナウイルス感染拡大による学校閉鎖のため、オンライン授業に切り替えてからは、シェムリアップ以外の学生も受講するようになった。対面授業が再開してからは、対面とオンラインのハイブリッド形式で授業を行うクラスもある。</p> <p>2. 日本語の試験 学習の成果を確認できる良い機会を得られた。 ・JFT-Basic: 日本の生活場面でのコミュニケーションに必要な日本語能力を測定し、「ある程度日常会話ができ、生活に支障がない程度の能力」があるかどうかを判定するテスト。 10月18日にプノンペンで4人が受験し、うち3人が合格。 ・日本語能力試験(JLPT): 7月と12月に実施される試験。 12月5日、2年ぶりに実施された。N4に2人、N5に6人が合格。</p> <p>3. 進路説明会・個人面談 ・技能実習生、特定技能実習生など日本での就労、留学について生徒、及び学習希望者に、本部スタッフも交え、説明会を開催。また、定期的に個人面談を実施している。NGOが運営する日本語学校として、一人ひとりの生徒に寄り添い、学習指導によって選択肢を広げ、最良な進路を見つけるサポートを行う。 ・日本への渡航が再開されてから、日本語学校に入学が決まっていた待機留学生が巣立っていった。また、カンボジアに進出している日本企業に就職し、そこから日本で働く足がかりをつかもうとしている学生も出始めた。状況が目まぐるしく変化していくなかで、情報の提供とともに、選択肢を広げていきたい。</p> <p>4. 国際交流基金による助成、支援 ・教材『いろいろ』の提供を受けるとともに、模擬授業の実施による技術指導も行ってもらった。 ・1月に「生活・就労のための日本語教育機関支援」プログラムによる支援をいただいた。 図書教材: 33冊(『みんなの日本語中級』本冊、問題集ほか) ICT機器: PC3台、複合機1台、プロジェクター2台ほか周辺機器</p> <p>5. 日本からの教材支援 国際理解授業を実施している日本の小学校や会員の方からの支援による、図鑑、絵本、教科書など、HGももたろう日本語学校をはじめ、チェイ小学校やNCCCの書棚に配架できた。</p>	
<p>JFT-BASIC 試験説明</p>	
<p>新しいPC、プロジェクターを使用した授業</p>	
<p>いろんな本がたくさん届いた!</p>	

事業名	養護施設(ニュー・チャイルド・ケアセンター:NCCC)運営事業	1 貧困をなくそう	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	6 安全な水とトイレを世界中に
-----	---------------------------------	-----------	----------------	---------------	-----------------

支援対象	シェムリアップ近郊の貧困家庭の児童
------	-------------------

活動理由
 孤児、家庭での生活が困難な状況の児童を、安心して生活できる環境のもと養育し、就学の機会を与え、貧困の連鎖から抜け出し、自立していけるよう物心両面から支援する。カンボジアの良き市民となる人材を育成する。

活動概要

1. 児童数 13人(男子6人/女子7人) ※ 2022/3/31 現在
2. 生活

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、2021年4月にはシェムリアップ市街がロックダウンとなり、チェイ村でも感染者が増えたため、危機管理について確認、準備を行った。NCCCへの出入り制限や手洗い、うがい、マスク着用など基本的な予防策を徹底した。スタッフ、子どもが感染した場合の対応をそれぞれ細かく決め、備蓄食料も確保した。子どもへのワクチン接種は、日本よりもカンボジアの方が早く始まった。
- ・NCCC内で規則正しい生活を送るために、一日の時間割を作り、掃除、洗濯、食事の用意や畑仕事をスタッフと一緒にやった。昨年度入所した3人の児童もすっかり生活に慣れた様子で、自分の担当のお手伝いを大きい子に教わっている。
- ・クメール正月とプチュンバン(クメール盆)の里帰りや絵画教室など、中止する行事が多かった。現地スタッフはNCCC内でも子どもが楽しい時間を過ごせるように、ミニ運動会を企画するなど工夫していた。
- ・感染者数が大きく減少するなか、NCCCの大きい子達がアンコールワット国際ハーフマラソンにエントリーした。事前にプノンペンからオンラインでランニング講習を受け、準備練習をして当日を迎えた。久しぶりの外出、イベントで、プノンペンのスタッフからも参加し、ほぼ2年ぶりの再会を喜んだ。



ロックダウンに備え、乾燥豆や芋、缶詰などを備蓄



NCCCの子もワクチン接種の列に並ぶ

3. 教育
 - ・約2年続いた学校閉鎖中は、学校から定期的に持ち帰る宿題に取り組むとともに、会員の方からのIT環境、ICT機器のご支援によりオンライン学習が可能となった
 - ・2022年1月から授業が再開された。政府の決定は、小学生と中学生は進級し、高校生は進級せず同じ学年で学び直しとなった。2年間の学習の遅れを取り戻すことは難しいと思われるが、できるかぎり補習の環境を作りたい。

- 4 交流

- ・訪問者の受入れは行っていない。インターネット回線が5Gとなり、日本の小学校の児童とオンラインでの交流が円滑に行えた。特に、これまで現地を訪問されたことのないペアレント(交流里親)の方にもご参加いただいた12月のオンライン交流会では、NCCCの子ども達と画面越しに直接話をしたり、子ども達が撮影したNCCCの施設の様子や生活を動画で紹介したりすることができ、とても喜ばれていた。
- ・これまでツアーの際に持ち入っていた物資については、皆様のご支援によりコンテナ便を利用して現地に届けることができています。



3kmも走ったのは初めて！元気にゴール！



学校が始まる！制服のスカートをお直し

ご支援・ご協力ありがとうございます

新型コロナウイルスの資金調達に及ぼす影響を大変心配しておりました。皆様からの温かいご支援、ご協力のおかげをもちまして、2021年度の活動も滞ることなく終えることができました。ありがとうございました。

◆ 法人会員 42

NPO法人こまちハート・オブ・ゴールド	木田山宝積寺
一般社団法人奈良県経済倶楽部	協同組合広域情報センター
岡山トヨタ自動車株式会社	グンゼスポーツ株式会社
学校法人 就実学園	公益財団法人徳島県勤労者福祉
学校法人森教育学園	山陽リビングメディア株式会社
株式会社翌檜	宗教法人 津梁院
株式会社アニモ	宗教法人 東漸院
株式会社アミジョン	宗教法人 薬王寺
株式会社大手饅頭伊部屋	大光電機株式会社
株式会社大町	中央自動車工業株式会社
株式会社研美社	中国建設工業株式会社
株式会社山陽新聞社	天満屋ストア労働組合
株式会社サンラヴィアン	ナカシマホールディングス株式会社
株式会社 J T B 岡山支店	奈良県自動車整備工業協同組合
株式会社徳山電機製作所	奈良トヨタ株式会社
株式会社浜谷金属工業所	日本空港ビルディング株式会社
株式会社ビザビ	日立建機株式会社
株式会社丸五	富士リアルティ株式会社
株式会社マルシン物流	メタウォーター株式会社
株式会社マルワ電化	ユニック中四国販売株式会社
株式会社 R I G H T S .	両備ホールディングス株式会社

(敬称略、五十音順)

◆ 法人・団体様のご寄付・ご協力(延べ数) 126

うち5万円以上のご寄付、ご協力をいただいた団体・企業様をご紹介します。

Active People's Microfinance Institution PLC	大光電機株式会社
All ROAD ASSET INVESTMENTS MARKET LIMITED	大光電機株式会社有志御一同
朝日塾小学校	ハート・オブ・ゴールド長岡クラブ
一般財団法人よこはまクリエイティブ財団	兵庫県高校陸上競技合同練習会
親子チャリティマラソンinおもちゃ王国	藤沢ロータリークラブ
株式会社翌檜	藤沢南ロータリークラブ
株式会社栄光スポーツ	ミ・ナーラ マネジメントオフィス
株式会社大町	メタウォーター株式会社
株式会社山陽新聞社	養寿院
高野山真言宗南真会	淀川マラソン

(敬称略、五十音順)

◆ 個人会員 477、 個人の方からのご寄付(延べ数) 348、うち5万円を超えるもの 21

※ 個人情報保護のため、個人の方のお名前の掲載は控えさせていただきます。
多くの皆様からご支援をお寄せいただいています。改めてお礼申し上げます。

2021年度会計報告

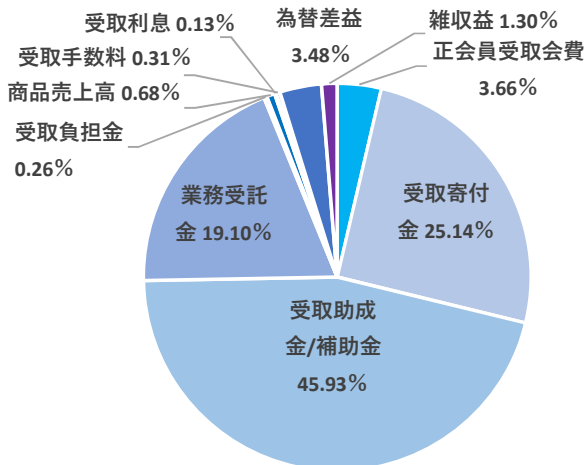
活動計算書 (2021.4.1~2022.3.31)

科 目	金額 (単位:円)
I 経常収益	
正 会 員 受 取 会 費	2,838,000
受 取 寄 付 金	19,503,730
受 取 助 成 金 / 補 助 金	35,636,303
業 務 受 託 金	14,820,300
受 取 負 担 金	202,234
商 品 売 上 高	524,624
受 取 利 息	104,249
受 取 手 数 料	238,900
為 替 差 益	2,702,832
雑 収 益	1,011,699
経 常 収 益 計	77,582,871
II 経常費用	
1 事業費	
国内外におけるスポーツ大会・ イベントの運営協力事業	764,330
スポーツを通じた開発支援事業	54,397,054
障がい者支援事業	1,587,987
被災地・紛争地における自立、復興 支援事業	7,162,470
国際理解・交流事業	491,965
その他、この法人の目的を達成 するために必要な事業	3,276,413
その他の活動（収益事業）	265,900
事 業 費 計	67,946,119
2 管理費	
管 理 費 経 費	11,180,459
管 理 費 計	11,180,459
経 常 費 用 計	79,126,578
当 期 経 常 増 減 額	△ 1,543,707
III 経常外収益	
経 常 外 収 益 計	0
IV 経常外費用	
経 常 外 費 用 計	0
税引前当期正味財産増減額	△ 1,543,707
法人税、住民税及び事業税	71,000
当 期 正 味 財 産 増 減 額	△ 1,614,707
前 期 繰 越 正 味 財 産 額	74,209,793
次 期 繰 越 正 味 財 産 額	72,595,086

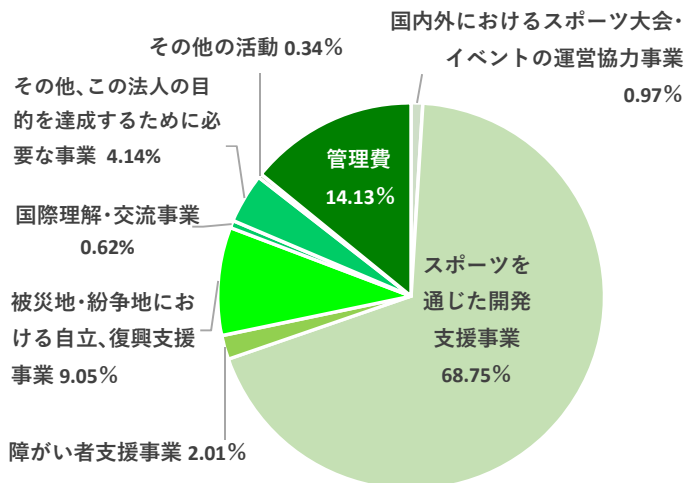
貸借対照表 (2022.3.31現在)

科 目	金額 (単位:円)
I 資産の部	
1 流動資産	
現 金 預 金	70,694,462
棚 卸 資 産	63,433
貯 蔵 品	503,685
未 収 金	115,280
前 払 費 用	172,447
立 替 金	5,815
仮 払 金	63,487
流 動 資 産 合 計	71,618,609
2 固定資産	
(1) 有形固定資産	
車 両 運 搬 具	187,201
什 器 備 品	332,753
有 形 固 定 資 産 計	519,954
(2) 投資その他の資産	
敷 金	426,104
事 業 積 立 金	50,000,000
投 資 其 他 の 資 産 計	50,426,104
固 定 資 産 合 計	50,946,058
資 産 合 計	122,564,667
II 負債の部	
1 流動負債	
未 払 金	6,511,261
前 受 金	42,308,799
預 り 金	346,521
未 払 法 人 税 等	71,000
未 払 消 費 税	732,000
流 動 負 債 合 計	49,969,581
負 債 合 計	49,969,581
III 正味財産の部	
前 期 繰 越 正 味 財 産	74,209,793
当 期 正 味 財 産 増 減 額	△ 1,614,707
正 味 財 産 合 計	72,595,086
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	122,564,667

経常収益内訳 (計: ¥77,582,871)



経常費用内訳 (計: ¥79,126,578)



サポーター大募集!!

小さな支援が集まり 大きな力になります

支える

正会員になる [個人 / 法人]

年間を通じて、活動・運営を支えてください。

個人 3,000円/年
法人 30,000円/年

- ・総会ご出席（議決権）
- ・年次報告書送付（1回）
- ・通信送付（2回）
- ・会員交流会のご案内
- ・特別イベントのご案内

正会員申し込みは
こちらから



新設

賛助会員になる [個人 / 法人]

個人会員 10,000円/年
法人会員 50,000円/年

※正会員との違いは・・・
会費額、総会の議決権がないこと。
そして、寄付扱いになるということ!

寄付をする

- プロジェクト寄付 -

特定の活動を応援したい!!
現地から活動報告が届き、活動現場の訪問もできます。

- ① ハート・ペアレント(里親制度)
- ② 日本語教育
- ③ 留学生
- ④ 障害者スポーツ
- ⑤ スポーツ施設・用具(学校)

- 一般寄付 -

その時最も必要としている活動、団体運営に充てさせていただきます。

- 物資寄付 -

お手許の使わないものが役に立ちます。

- ・スポーツ用品・用具
- ・石鹸・タオル等の日用品(新品)
- ・文具・教材・本・絵本
- ・書き損じはがき、未使用切手
- ・QUOカード等(プリペイド式)

HGは、認定NPO法人です。
法人、個人ともに、ご寄付は、税制上の優遇措置が受けられます。
「遺贈」についても、ご相談ください。

参加する

ボランティア

個人で、グループで、活動のお手伝いをしてみませんか？
本部事務局での事務補助、イベント補助、専門的な知識や技術（IT、デザイン、通訳・翻訳）をお持ちのボランティアさんを募っています。
シニアの方にも活躍いただいています!

インターンシップ

国際協力・開発、教育、スポーツに関心のある大学生や社会人の方を対象に、1カ月～1年の期間で、本部事務局、及び東南アジア事務所
で受け入れを行います。
ともに活動しませんか。

スタディ・ツアー

・HGスタディ・ツアー
年1回。HGの現地での活動に直接触れることができる貴重な体験となります。

研修やフィールド・ワーク、ゼミ旅行等、HGの活動プログラムにより「学び」のお手伝いをします。ご相談ください。

みなさまのご支援、ご参加をお待ちしています!

認定 特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド

〒701-1213 岡山市北区西辛川895-7-101 Tel/Fax 086-284-9700 e-mail: hginfo@hofg.org